

読解方略のタイプの分析

－中学校英語教科書と新潟県高等学校英語入試問題の比較－

平野 絹枝*・鈴木有紀子**・進藤 豪人***

1. はじめに

1998年度改訂され、2012年度完全実施された中学校学習指導要領において、「読むこと」に関しては、「英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。」という具体的な目標が掲げられている。指導事項として、

- (ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと。
- (イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。
- (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。
- (エ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。
- (オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

とあり、今回の改訂で、(ウ) が表現に変更があり、(エ) の一部と(オ) の全文が新たに加えられた。正しく、正確に読むことはもちろん、さらに、書かれた内容や考え方を深く読むことが求められている。

そこで、目標に付加された具体的な点について、2012年度から全面改訂された検定済中学校英語教科書のリーディング用の文章に付加している設問は、どの読解方略 (reading strategy) を求めているのか、また、新潟県公立高等学校入試問題における読解問題に関しては、どの読解方略が要求されているのかを比較、検討することは意義がある。

さらに、言語教育やテストの分野では、テストの波及効果 (washback) の影響は、多くの研究がなされている。Brown (2005) は、washbackを「関係しているカリキュラムにテストが影響を及ぼす程度」(p.242) と定義しており、その重要性を指摘している。テスト問題の分析は、このような先行研究を支持するものであり、どのような問題が公立高校入試で出題されるかは、ほとんどすべての生徒が中学校卒業後、高等学校に入学する今日の状況を考えると、日々の英語の授業を指導する英語教師はもとより、学習者である中学生の学習に大きく影響を与えると考えられる。

Grabe and Stoller (2011) は、より良い読み手は自動的に読解方略を用いて流暢に読みを行う、と述べ、さらに、読解方略がテキストを理解するために必要なものである、と説明した。多くの先行研究 (e.g., Anderson, 1991; Brantmeier & Dragiyski, 2009; Grabe, 2004; Hosenfeld, 1977; Jimenez, Garcia, & Pearson, 1996) は、方略訓練が学習者の読解に影響を与えると指摘している。Hosenfeld (1977) は、読解力の低い読み手に、読解力が高い読み手の方略を指導することで、彼らの読解力を向上させることができるかもしれないという示唆を与えている。

中学校英語授業で使用されているリーディングテキストは、学習者にとって貴重なL2のインプット資源であり、教科書の設問タスクを参考に英語教師は発問をしている。読み手に読解方略を身につけさせ、流暢な読み手に育てる方略の指導は、実際の中学校の英語検定教科書には含まれているのか、また、高校への進学を希望する学習者にとって、第1の試練となる高校入試問題は、中学校3年間の目標を踏まえた読解方略を求める問題がどの程度含まれているのかを検証する必要がある。

本研究では、過去5年間、平成20年度～平成24年度の新潟県公立高等学校入学者試験の英語読解問題と、新潟県で採用されている中学校文部科学省検定済英語教科書3社に取り上げられている本文、そのpre-reading活動、本文の後の練習問題で求められている読解方略の特徴を比較分析し、どの程度一致が図られているかどうかを明らかにして、今後の中学校英語リーディング指導への示唆を得たいと考える。

* 上越教育大学大学院学校教育研究科 ** 上越教育大学大学院生 (上越市立城北中学校) *** 上越教育大学大学院生

2. 分析方法

2.1 目的

本研究の目的は、中学校3年間でリーディング能力を育むための有効な指導法の示唆を得るために、3社の平成24年発行の文部科学省検定済中学校英語教科書（*NEW CROWN*, *NEW HORIZON*, *SUNSHINE ENGLISH COURSE*）の中のリーディングの本文とそのpre-reading活動、本文の後の練習問題と、その教科書を中学校で使用している新潟県の公立高等学校英語入学試験問題（平成20年度～平成24年度、過去5年分）のリーディングの設問で求められる読解方略を比較分析することである。

2.2 分析材料

分析材料は平成24年発行の文部科学省検定済中学校英語教科書（*NEW CROWN*, *NEW HORIZON*, *SUNSHINE ENGLISH COURSE*）及び新潟県の公立高等学校英語入学試験問題（平成20年度～平成24年度、過去5年分）。

2.2.1 3社における分析した読解問題数

*NEW CROWN*において、新潟県内で採択されている三省堂平成24年発行の『*NEW CROWN 1*』『*NEW CROWN 2*』『*NEW CROWN 3*』の、リーディングの本文、そのpre-reading活動、本文の後の練習問題における読解問題、計289題を分析した。

*NEW HORIZON*では、新潟県内で採択されている東京書籍平成24年発行の『*NEW HORIZON 1*』『*NEW HORIZON 2*』『*NEW HORIZON 3*』のリーディングの本文、そのpre-reading活動、本文の後の練習問題における読解問題、計227題を分析した。

*SUNSHINE ENGLISH COURSE*では、新潟県内で採択されている開隆堂平成24年発行の『*SUNSHINE ENGLISH COURSE 1*』『*SUNSHINE ENGLISH COURSE 2*』『*SUNSHINE ENGLISH COURSE 3*』の、リーディングの本文、そのpre-reading活動、本文の後の練習問題における読解問題、計289題を分析した。

2.2.2 新潟県公立高校英語入試問題

教英出版平成24年発行の『25年春受験用 新潟県公立高校 過去10ヶ年分入試問題集 英語』より、過去5年分、平成20年度～平成24年度の読解問題、計68題を分析した。

新潟県の公立高校入学試験英語の問題は、大問4問形式で過去10年以上出題されている。大問1はリスニング問題、大問2は会話文形式のテキストからの問題、大問3は課題英作文、大問4は長文のテキストからの問題で構成される。今回の分析では、特に読解能力を問われる大問2と大問4に着目し、過去5年分の問題を分析した。そのうち、テキストの内容の理解というよりも単純な文法知識を問う問題（語形変化、語順整序など）に関しては分析の対象外とし、カウントしなかった。

2.3 読解方略の分類

読解方略の分類はおもに Grabe and Stoller (2011, p.10) に従った。以下の29種類中7種類は筆者らが追加した。すなわちNo.23「単語の意味を理解する」、No.24「繰り返し読みをする」、No.25「概要を理解する」、No.26「トピックを理解する」、No.27「音読する」、No.28「主題（メインアイデア）を理解する」、No.29「結束性（代名詞、代動詞等）を理解する」を追加して、分類した。No.14は“新語”を“新語や語句”と、“語句”を追加して分類した。その他の項目はGrabe and Stollerを使用した。使用した読解方略のタイプは、表1の通りである。

2.4 分析方法

開隆堂平成24年発行の『*SUNSHINE ENGLISH COURSE*』、三省堂平成24年発行の『*NEW CROWN*』、東京書籍平成24年発行の『*NEW HORIZON*』と、新潟県高等学校英語入試問題読解問題の読解方略に関して、Grabe and Stoller (2011) の読解方略の分類を使用して、分析、比較を行った。分析教材の読解問題を1問ごとにどのタイプの読解方略が問われているかを筆者ら3名で検討し、その数を数えた。1問が複数の読解方略を求めている場合は、複数の読解方略としてカウントした。日問日答、英問英答、他の設問解答のタイプも分析対象とした。全体の設問数に対する各タイプの読解方略の数の割合を算出した。1個の読解問題において、同じ読解方略を求めている複数の下位設問がある場合は、それぞれの下位設問ごとに1個とカウントした。項目7「与えられた問題に対する答えを見つける」は事実発問

(factual question) に関する方略とし、答えは本文中のdetailから探せるものとした。また、本文を読んでイラスト、グラフ、図を理解する設問も、information transferとして項目7に分類した。

表1 使用した読解方略のタイプ

1. リーディングの目的を明確にする (Specifying a purpose for reading)。
2. 何をすべきか、どのようにすべきかを計画する (Planning what to do/what steps to take)。
3. テキストをプレビューする (Previewing the text)。
4. テキストまたはテキストの一部の内容を予測する (Predicting the contents of the text or section of text)。
5. 予測をチェックする (Checking predictions)。
6. テキストの内容について疑義を問う (Posing questions about the text)。
7. 与えられた問題に対する答えを見つける (Finding answers to posed questions)。
8. テキストと背景知識を結びつける (Connecting text to background knowledge)。
9. 情報を要約する (Summarising information)。
10. 類推する (Making inferences)。
11. テキスト内の情報を統合する (Connecting one part of the text to another)。
12. テキストの構成に注意する (Paying attention to text structure)。
13. 読み返しをする (Rereading)。
14. 新語や語句の意味をテキストから類推する (Guessing the meanings of new words and phrases from context)。
15. 談話標識を使って関係を見る (Using discourse markers to see relationship)。
16. 理解しているかチェックする (Checking comprehension)。
17. どこが困難であるかを同定する (Identifying difficulties)。
18. 間違った解釈を修正する (Taking steps to repair faulty comprehension)。
19. 筆者に対する批判読みをする (Critiquing the author)。
20. 内容に対する批判読みをする (Critiquing the text)。
21. 読みの目的がどれほどあっていたかを判断する (Judging how well purposes for reading were met)。
22. テキストから学んだことを内省する (Reflecting on what has been learned from the text)。
23. 単語の意味を理解する (Understanding word meanings)。
24. 繰り返し読みをする (Repeated reading)。
25. 概要を理解する (Understanding the outline of the text)。
26. トピックを理解する (Understanding the topic of the text)。
27. 音読する (Reading aloud)。
28. 主題 (メインアイデア) を理解する (Understanding the main idea of the text)。
29. 結束性 (代名詞, 代動詞等) を理解する (Understanding cohesion)。

3. 結果

3社を通して最も多かった設問は、項目7「与えられた問題に対する答えを見つける」であった。3社のどの学年でも多かった項目である。表2は、3社の教科書の問題及び入試問題の数と割合の表である。なお、出現した各読解方略のタイプの具体例はAppendix参照。

3.1 NEW CROWN

NEW CROWNでは、教科書内のリーディング設問の合計は、289問であった。項目7「与えられた問題に対する答えを見つける」が143問(49.5%)と、最も多く、続いて項目29「結束性(代名詞, 代動詞等)を理解する」が55問(19.0%)あった。その後、項目8「テキストと背景知識を結びつける」36問(12.5%)、項目10「類推する」18問(6.2%)、項目20「内容に対する批判読みをする」12問(4.2%)、項目12「テキストの構成に注意する」6問(2.1%)と続いた。レッスンの前のページにpre-readingの問題があり、それは項目8に分類した。教科書作成者のリーディングにおけるスキーマ活性の重要性を感じることができる。リーディングセッションごとに、代名詞等の確認する問題があるのが特徴と言える。

表2 3社の教科書の問題及び入試問題の数と割合

方略のタイプ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
NEW CROWN	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	143(49.5)	36(12.5)	2(0.7)	18(6.2)	0(0.0)	6(2.1)	0(0.0)	0(0.0)	3(1.0)
NEW HORIZON	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	179(78.9)	2(0.9)	6(2.6)	16(7.0)	1(0.4)	3(1.3)	0(0.0)	0(0.0)	7(3.1)
SUNSHINE	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(0.7)	0(0.0)	0(0.0)	206(71.3)	2(0.7)	9(3.1)	27(9.3)	7(2.4)	8(2.8)	0(0.0)	0(0.0)	9(3.1)
3社の合計	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(0.2)	0(0.0)	0(0.0)	528(65.6)	40(5.0)	17(2.1)	61(7.6)	8(1.0)	17(2.1)	0(0.0)	0(0.0)	19(2.4)
新潟20年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	7(41.2)	0(0.0)	0(0.0)	2(11.8)	0(0.0)	2(11.8)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)
新潟21年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(35.3)	0(0.0)	0(0.0)	3(17.6)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)
新潟22年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	10(58.8)	0(0.0)	0(0.0)	2(11.8)	1(5.9)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)
新潟23年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(35.3)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)	1(5.9)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	3(17.6)
新潟24年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	10(58.8)	0(0.0)	1(5.9)	4(23.5)	0(0.0)	1(5.9)	0(0.0)	1(5.9)	0(0.0)
5ヵ年入試問題	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	39(57.4)	0(0.0)	1(1.5)	12(17.6)	2(2.9)	3(4.4)	0(0.0)	1(1.5)	6(8.8)

方略のタイプ	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	合計数
NEW CROWN	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	12(4.2)	0(0.0)	1(0.3)	0(0.0)	0(0.0)	4(1.4)	4(1.4)	1(0.3)	4(1.4)	55(19.0)	289
NEW HORIZON	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	10(4.4)	2(0.9)	1(0.4)	0(0.0)	0(0.0)	227
SUNSHINE	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	9(3.1)	0(0.0)	3(1.0)	1(0.4)	1(0.4)	2(0.7)	2(0.7)	1(0.4)	0(0.0)	0(0.0)	289
3社の合計	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	21(2.6)	0(0.0)	4(0.5)	1(0.1)	1(0.1)	16(2.0)	8(2.0)	3(0.4)	4(0.5)	55(6.8)	805
新潟20年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	12
新潟21年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)	1(5.9)	12
新潟22年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	14
新潟23年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	1(5.9)	1(5.9)	13
新潟24年度入試	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	17
5ヵ年入試問題	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	2(2.9)	2(2.9)	68

3.2 NEW HORIZON

分析設問総数は3社の中で最も少なく227問であった。総数(227)に対する、項目7「与えられた問題に対する答えを見つける」の割合(78.9%)は、3社の中で最も高かった(1年18問, 2年85問, 3年76問)。続いて、項目10が16問(7.0%), 項目25「概要を理解する」が10問(4.4%), 項目9「情報を要約する」が6問(2.6%)であった。項目25「概要を理解する」の項目の割合が他の教科書に比べて高かったのが特徴として挙げられる。

3.3 SUNSHINE

分析設問総数は、289問であった。SUNSHINE1のReading2で「辞書を使って意味を確認しながらもう一度読みましょう。」という設問があり、それを項目24「繰り返し読みをする」と分類した。さらに、「あとに起きる出来事は、a. ~d.のどれだと思いますか。」という設問は、項目4「テキストの内容を(読みながら)予想・予測する」に分類した。Extensive Readingで、テキストを読んで、内容の類推を求める問題があった。また、テキストを読んで「~は…に何を教えたのでしょうか。考えてみましょう。」という問題は、項目22「テキストから学んだことを内省する」に分類した。MY PROJECT5で、「スピーチ原稿を読んでそれを初めに(opening), 展開(body), 結び(ending)に分けるとしたらどこで区切ることができますか。区切る部分にななめ線(/)をいれましょう。」という設問を、項目12「テキストの構成に注意する」に分類した。

項目7「与えられた問題に対する答えを見つける」が206問(71.3%)と最も多く、続いて項目10「類推する」27問(9.3%), 項目9が9問(3.1%), 項目20「内容に対する批判読みをする」9問(3.1%), 項目12「テキストの構成に注意する」8問(2.8%)と続いた。

3.4 新潟県公立高等学校入試問題で要求される読解方略

平成22年度の問題で、会話形式と新聞記事形式の2つのテキストを照らし合わせながら読むことを求められていたもので、項目12「テキストの構成に注意する」に分類した。平成23年度まで毎年出ている会話テキスト内の一部分を空欄にしてあてはまる語句または英文を入れるという形式は、平成24年度では見られなかった。平成24年度では、英語の要約文中の、英単語の穴埋めの問題が新しく加えられ、それを項目9「情報を要約する」と分類した。また、英文中の語句の意味を、日本語の選択肢で選ぶ問題が初出した。これを項目10「類推する」と分別した。

表2から、5年間における読解問題全体としては、項目7「与えられた問題に対する答えを見つける」の項目が多く

39問 (57.4%)、項目10「類推する」が12問 (17.6%)、項目15「談話標識を使って関係を見る」6問 (8.8%)、項目12「テキストの構成に注意する」3問 (4.4%)と続いている。平成24年度の設定問の合計数は17問で、過去5年の中で最も多くなった(平成20年度12問, 21年度12問, 22年度14問, 23年度13問)。

4. 考察

分析教科書3社、公立高校英語入試問題を比較すると(図1参照)、項目7「与えられた問題に対する答えを見つける」が、もっとも多い項目であった。テキストに書かれている内容に基づいて、答えを英文から直接明示的に早く検索するscanningが求められており、速く、正確に読み取ることが重要だとされていると考えられる。

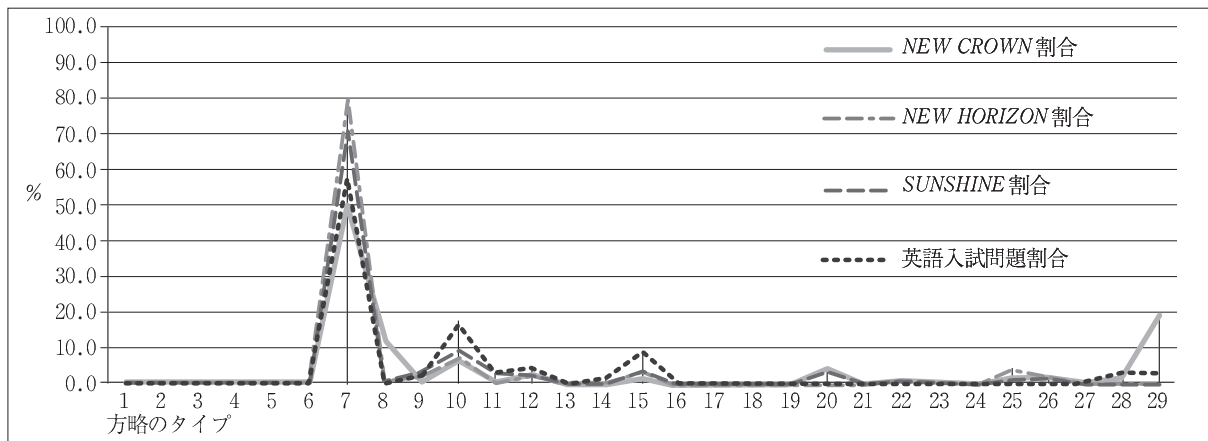


図1 3社英語教科書と公立高校英語入試問題の方略タイプ別問題数の比較

項目7「与えられた問題に対する答えを見つける」に続き、入試問題では項目10「類推する」が多く、教科書2社は2番目、1社は4番目に多い項目となっている。読み手に推論を求める設問(inferential question)が重要になってきていると言える。また、公立高等学校英語入試問題では、項目15「談話標識を使って関係を見る」の割合が教科書に比べて多い。したがって、項目7のようなテキスト内にある情報を見つけ答える設問だけでなく、談話標識に注意して英文を読む読解方略を身につけさせることが求められていると考えられる。

また、項目9「情報を要約する」は、公立高等学校入試問題よりも教科書の問題で求められる割合が多かった。教師が実際の指導の中で、まとまった英文の要約を求める設問が増えてきていることが予測される。平成24年度入試問題で項目9が初出したように、今後公立高校英語入試問題の中で「情報を要約する」ことが増えていく可能性が考えられるであろう。そして、入試問題では次に、項目12「テキストの構成に注意する」の数が多いことから、実際の授業でもまとまった英文を読んで、「テキストの構成に注意する」設問を設定していくことが必要であろう。

5. おわりに

公立高等学校英語入試問題と検定済中学校英語教科書の読解問題や読解方略について比較、検討することは、どのようなアプローチで流暢な読み手を育てていったらよいかについて有意義な示唆を与える研究であると考えられる。また今回の教科書分析には含めなかったが、テキストの総単語数、総文数、読みやすさ、テキストの種類等において、公立高等学校入試問題で使用されているテキストと教科書で扱われているテキストとの違いはどうか、3年間の成果を測る入試問題として適切であるかどうか検討する必要がある。他社のリーディングテキストを授業に取り入れれたり、読解方略に基づき発問を工夫したりする配慮も必要であろう。今後、公立高等学校入試問題の傾向を継続的に検証していき設問タスクの分析を行うことで、中学校、高等学校と続く英語授業のスムーズな接続、連携の可能性を見出すことができると考えられる。高等学校の教科書の読解方略設問、センター試験の読解問題、また私立の高等学校や国立の高等専門学校の入試問題がどのような読解方略を求めているのかを調べることは興味深い。さらに今回の分析で扱っていない、他の3社の検定済中学校英語教科書はどのような読解方略を求める設問がなされているかを分析することが必要であろう。この教材分析を生かし、英語の自立した流暢な読み手を育てる方略を伸ばす教室内での読解設問の検討をし、今後の指導に生かしていきたい。

References

- Anderson, N. J. (1991). Individual differences in strategy use in second language reading and testing. *The Modern Language Journal*, 75, 460-472.
- Brantmeier, C., & Dragiyski, B. (2009). Toward a dependable measure of metacognitive reading strategies with advanced L2 learners. In C. Brantmeier (Ed.), *Crossing languages and research methods: Analyses of adult foreign language reading* (pp.47-72).
- Brown, J. D. (2005). *Testing in language programs*. New York: McGraw-Hill.
- Grabe, W. (2004). Research on teaching reading. *Annual Review of Applied Linguistics*, 24, 44-69.
- Grabe, W., & Stoller, F. L. (2011). *Teaching and researching reading. second edition*. UK: Pearson Education limited.
- Hosenfeld, C. (1977). A preliminary investigation of the reading strategies of successful and non-successful second language learners. *System*, 5, 110-123.
- Jimenez, R. T., Garcia, G. E., & Pearson, P. D. (1996). The reading strategies of bilingual Latina/o students who are successful English readers: Opportunities and obstacles. *Reading Research Quarterly*, 31, 90-112.
- 教英出版 (2012) 『新潟県公立高校過去10ヶ年分入試問題集英語』 東京：教英出版
- 文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 東京：開隆堂
- NEW CROWN 1 (2013) 東京：三省堂
- NEW CROWN 2 (2013) 東京：三省堂
- NEW CROWN 3 (2013) 東京：三省堂
- NEW HORIZON 1 (2013) 東京：東京書籍
- NEW HORIZON 2 (2013) 東京：東京書籍
- NEW HORIZON 3 (2013) 東京：東京書籍
- SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 (2013) 東京：開隆堂
- SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 (2013) 東京：開隆堂
- SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 (2013) 東京：開隆堂

Appendix: Sample Questions (項目1～3, 5～6, 13, 16～19, 21は分析項目なし。)

[読解方略のタイプ, 教科書名及び入試問題 学年//ページ 問題文の例]

4. テキストまたはテキストの一部の内容を予測する。(SS1//p.98 あとに起こる出来事は, a～dのうちどれだと思いますか。日問英答)	20. 内容に対する批判読みをする。(SS2//p.120 めぐみさんのアイデアがうまくいったのはなぜだと思いますか。日問日答)
7. 与えられた問題に対する答えを見つける。(NH2//p.14 この山の特徴は何でしょうか。日問日答)	22. テキストから学んだことを内省する。(SS3//p.122 この物語からどのようなことを学ぶことができましたか。日問日答)
8. テキストと背景知識を結びつける。(SS2//p.123 日本にも似たような活動がありますが, それはどのようなものですか。日問英答)	23. 単語の意味を理解する。(SS1//p.99 下線部のanythingとpaperの適切な意味を, 辞書を引いてさがしましょう。日問日答)
9. 情報を要約する。(NC3//p.73 空欄を埋めて, 本文の内容を要約しよう。日問英答)	24. 繰り返し読みをする。(SS1//p.98 辞書を使って意味を確認しながらもう一度読みましょう。日問英答)
10. 類推する。(NH2//p.94 このあと, この町ではどんなことが起こったと思いますか。日問英答)	25. 概要を理解する。(NC3//p.96 それぞれの人のメッセージを自分の言葉でまとめよう。日問英答)
11. テキスト内の情報を統合する。(NH3//p.23 どんなフェアトレード商品が売られているのでしょうか。日問日答)	26. トピックを理解する。(SS2//p.42 このセクションに日本語のタイトルをつけるとすると何がいいでしょうか。日問日答)
12. テキストの構成に注意する。(NH3//p.3 次の文を, 正しい順になるように()に番号を書きなさい。整序問題)	27. 音読する。(NC3//p.73 キング牧師の演説を, メッセージが伝わるように朗読してみよう。日問英答)
14. 新語や語句の意味をテキストから類推する。(平24//p.17 下線文Bの意味として最も適当なものを一つ選び, その記号を書きなさい。記号選択)	28. 主題(メインアイデア)を理解する。(NC1//p.116 この物語で筆者が伝えたいことを, 以下の中から選ぶとすればどれになるか。記号選択)
15. 談話標識を使って関係を見る。(NH2//p.53 一郎の母はどんな提案をしていますか。日問日答)	29. 結束性(代名詞, 代動詞等)を理解する。(NC3//p.8 12行目のthemは何を指しているでしょう。日問日答)

[注: NC=NEW CROWN; NH=NEW HORIZON; SS=SUNSHINE ENGLISH COURSE]